

カンファレンスコール用資料

2009年度 第1四半期決算

(2009年4月1日～2009年6月30日)

開催日時 2009年7月31日(金)
19:00～20:00

説明者
取締役専務執行役員 松田 等

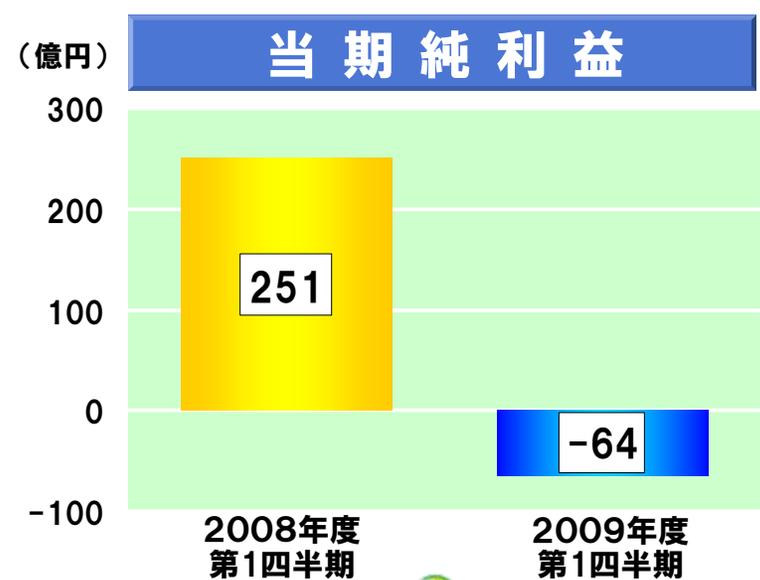
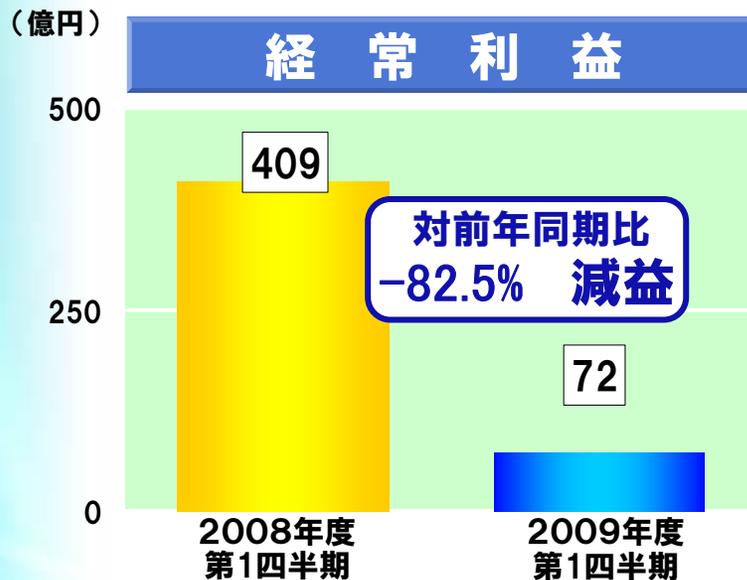
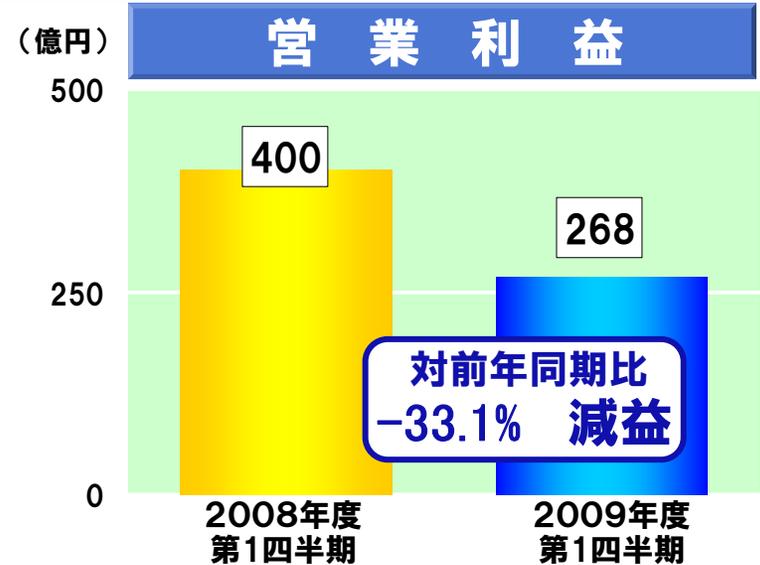
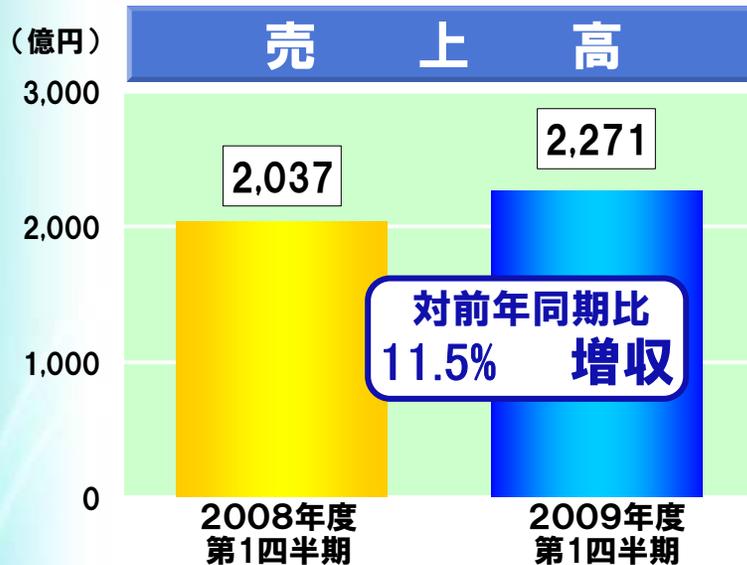


第一三共株式会社

MEMO



2009年度 第1四半期 実績の概要



2009年度 第1四半期 実績の概要 - 前年同期との比較 -

(単位：億円、金額上段は対売上高構成比)

	2008年度 第1四半期 実績 ①	②	2009年度 第1四半期 実績				
			単純比較 ②-①	Ranbaxy社 1-3月 実績 (US GAAP)	Ranbaxy社 のれん償却 等	除：Ranbaxy 関連 ③	実質比較 ③-①
売上高	100.0% 2,037	100.0% 2,271	234	100.0% 297		100.0% 1,974	-63
売上原価	23.9% 486	27.5% 625	139	57.7% 171		23.0% 454	-33
販管費	38.4% 782	40.8% 927	146	41.3% 123	15	40.0% 790	8
研究開発費	18.1% 369	19.9% 451	82	7.1% 21		21.8% 430	61
販管費計	56.5% 1,151	60.7% 1,378	228	48.4% 144	15	61.8% 1,220	69
営業利益	19.6% 400	11.8% 268	-132	-6.1% -18	-15	15.2% 300	-100
経常利益	20.1% 409	3.2% 72	-337	-79.2% -235	-15	16.3% 322	-87
当期純利益	12.3% 251	-2.8% -64	-315	-57.0% -169	5	5.1% 100	-151

増減の内容 - 前年同期との比較 -

1. 連結売上高 2,271億円 (+234億円, +11.5%)

■ 実質比較 (-63億円)

- オルメサルタン (+53億円)
- ロキソニン (+28億円)
- レボフロキサシン (-60億円)
- エイゾール一時金 '08計上 (-47億円)
- 円高影響

■ Ranbaxy (+297億円)

- 地域別売上構成比 北米 (26%), インド (21%), 欧州 (18%), 他地域 (35%)

2. 連結営業利益 268億円 (-132億円, -33.1%)

■ 実質比較 (-100億円)

- 減収による売上総利益減 (-30億円)
- 販管費 (+8億円)
 - ・DSE, LPI 増加
 - ・U3 Pharmaのれん償却 (+13億円)
 - ・DS単体, DSI 減少
- 研究開発費 (+61億円)
 - ・Edoxaban, Denosumab, Prasugrel 等プロジェクト費用増
 - ・リボグリタゾン費用減

■ Ranbaxy関連 (-32億円)

- Ranbaxy社自体の営業損失 (-18億円)
- のれん/無形固定資産に関わる償却費 (-15億円)

増減の内容 - 前年同期との比較 -

3. 経常利益 72億円 (-337億円, -82.5%)

- 営業外収益微増 (+2億円)
- 営業外費用の増加 (+207億円)
 - Ranbaxy関連 (+227億円)
 - ・デリバティブ評価損 (+129億円) ・借入金等為替差損 (+87億円)
 - Ranbaxy以外 (-20億円)
 - ・為替差損 (-16億円) ・擬似ストックオプション評価損 (-7億円)

4. 当期純利益 -64億円 (-315億円)

- 特別利益の増加 (+21億円) ● 投資有価証券売却益 (+18億円)
- 特別損失の減少 (-7億円)

- 法人税等 (+95億円)
 - Ranbaxy連結調整(税効果不適用等) (+70億円)
 - 過年度(2008年度)税金計算の修正 (+75億円)
 - DS単体の試験研究費税額控除不適用 等
- 少数株主利益 (-89億円)・・・Ranbaxy社に関わる少数株主持分(36.08%)

2009年度 業績予想 概要

(単位：億円、金額上段は対売上高構成比)

	2009年度 業績予想 (5月公表)		2009年度 最新業績予想					
	上半期 ①	年度 ②	上半期 予想			年度 予想		
			第1四半期 実績 ③	進捗率 ③/①	④	差異 ④-①	⑤	差異 ⑤-②
売上高	100.0% 4,650	100.0% 9,600	100.0% 2,271		100.0% 4,650	0	100.0% 9,600	0
売上原価	29.0% 1,350	29.0% 2,780	27.5% 625	46.3%	29.0% 1,350	0	29.0% 2,780	0
販管費	42.2% 1,960	40.8% 3,920	40.8% 927	47.3%	42.2% 1,960	0	40.8% 3,920	0
研究開発費	20.0% 930	20.2% 1,940	19.9% 451	48.5%	20.0% 930	0	20.2% 1,940	0
販管費計	62.2% 2,890	61.0% 5,860	60.7% 1,378	47.7%	62.2% 2,890	0	61.0% 5,860	0
営業利益	8.8% 410	10.0% 960	11.8% 268	65.3%	8.8% 410	0	10.0% 960	0
経常利益	3.7% 170	7.2% 690	3.2% 72	42.2%	8.0% 370	200	7.2% 690	0
当期純利益	1.7% 80	4.2% 400	-2.8% -64	-80.5%	2.4% 110	30	4.2% 400	0

業績予想の一部修正について

1. 営業利益段階までは修正無

2. 上半期予想の一部を修正 経常利益(+200億) 純利益(+30億円)

■ 上半期業績予想修正の主要因

- 会計期間が異なるRanbaxyは既に第2四半期決算(2009年1-6月)が確定しており、グループ全体の上半期決算への影響が大きい事項を業績予想に反映

Ranbaxy営業外費用

- 第1四半期:227億円計上→第2四半期に約190億円圧縮されることが確定的
- 上記に伴う連結調整
- 過年度(2008年度)税金計算の修正

3. 開示項目の全てにわたり年度業績予想は修正無

■ 年度業績予想を変更しない理由

- 上半期業績予想修正の主要因であるRanbaxy営業外費用の圧縮は4-6月における対ドル/ルピーレートの高騰によるもので、今後の推移は流動的
- 第一三共グループ全体では現時点で年度の業績予想を修正するほどの大きな与件変化はない

主要製品の状況 - 邦貨換算 -

(単位：億円)

		2009年度 最新業績予想 (5月公表から変更無)						
		上半期 予想				年度 予想		
		第1四半期 実績 ①	進捗率 ②/①	対前年同期 比較	②	対前年同期 比較		対前年同期 比較
GLOBAL	オルメサルタン <高血圧症治療剤>	560	49.9%	53	1,122	76	2,355	244
	レボフロキサシン <合成抗菌剤>	198	46.4%	-60	427	-66	920	-57
	プラバスタチン <高コレステロール血症治療剤>	147	50.7%	-14	290	-29	550	-58
	プラスグレル <抗血小板剤> * 共同販促収入	0.0	-	-	-	-	-	-
日本	カルブロック <高血圧症治療剤>	35	49.3%	4	70	10	150	29
	アーティスト <高血圧症治療剤>	60	50.3%	4	120	10	240	21
	クレメジン <慢性腎不全用剤>	34	47.9%	2	70	6	140	12
	ロキソニン <消炎鎮痛解熱剤>	112	46.8%	28	240	51	510	123
	オムニパーク <造影剤>	71	49.3%	-1	145	-1	280	-3
	ユリーフ <排尿障害改善剤>	22	49.5%	5	45	10	100	21
米国	ヴェノファー <貧血治療剤>	80	59.3%	-3	135	-33	275	-45
	ウェルコール <高コレステロール血症治療剤 /2型糖尿病治療剤>	69	51.0%	5	135	10	285	40

主要製品の状況 - 現地通貨ベース -

		2009年度 最新業績予想 (5月公表から変更無)						
		上半期 予想					年度 予想	
		第1四半期 実績 ①	進捗率 ②/①	対前年同期 比較	②	対前年同期 比較		対前年同期 比較
第一三共 Inc.<米国> (百万ドル)	Benicar / Benicar HCT	227	50.7%	3	447	19	905	36
	Azor	31	45.6%	18	68	33	158	72
	Welchol	71	49.8%	9	142	24	300	56
第一三共ヨーロッパ GmbH <欧州> (百万ユーロ)	Olmetec / Olmetec Plus	63	44.2%	12	142	27	304	43
	Sevikar	7	37.2%	7	18	18	38	22
ルイトホルド ファーマシューティカルズ Inc.<米国> (百万ドル)	Venofer	82	57.9%	3	142	-17	289	-29

参考情報: Ranbaxy社の業績 (インド会計基準)

(Rs. Millions, ratio to sales)

Indian GAAP	2009 Results (un-audited)			Q2 vs Q1
	Jan-Mar Q1	Apr-Jun Q2	Jan-Jun H1	
Sales	100.0% 15,584	100.0% 17,953	100.0% 33,537	2,369
Less: Excise Duty	36	34	70	-2
Net Sales	15,548	17,919	33,467	2,371
Other Operating Income	223	873	1,096	650
Cost of Sales	9,115	11,178	20,293	2,063
SG&A	5,554	5,987	11,541	433
R&D Expense	1,079	1,058	2,137	-21
Forex (Gain)/Loss	845	-716	129	-1,561
Operating Profit before Interest, Depreciation and Amortization	-5.3% -822	7.2% 1,285	1.4% 463	2,107
Interest	246	197	443	-49
Depreciation & Amortization	639	644	1,283	5
Forex (Gain)/Loss on Loans	1,273	-1,908	-635	-3,181
Operating Profit before Tax	-19.1% -2,980	13.1% 2,352	-1.9% -628	5,332
Interest and Other Income	457	400	857	-57
Exceptional Items	-9,188	8,067	-1,121	17,255
Profit before Tax	-75.1% -11,711	60.3% 10,819	-2.7% -892	22,530
Tax	-4,101	3,888	-213	7,989
Profit after Tax	-48.8% -7,610	38.6% 6,931	-2.0% -679	14,541

MEMO



研究開発 パイプラインの状況



研究開発パイプラインの変化（5月以降）

■ ステージの進捗

■ Effient™（米）

抗血小板剤 ACS-PCI*（申請中→承認）

* 経皮的冠動脈形成術後の急性冠症候群

■ ロキソプロフェン/ゲル製剤（日）

消炎鎮痛剤（P3→申請中）

■ 開発中止

■ リボグリタゾン（CS-011）

インスリン抵抗性改善剤

（臨床試験において、既存品との差異化が十分にできないと判断したため）

■ CS-866DM（日）

オルメサルタン/糖尿病性腎症

（臨床試験の主要評価項目において、設定した基準を満たさなかったため）

- **適応症** 経皮的冠動脈形成術 (PCI) 施行の急性冠症候群 (ACS) 患者における血栓性心血管系イベント (ステント血栓症を含む) の抑制
 - Effientの登場までACS-PCI患者に対する薬物療法の選択肢は限定的であった
 - 加えて現在の標準的薬物療法では一定程度の Non-Responderの存在が知られている
- **Boxed warning**
 - Effientの投与により出血リスクが高くなる一部の患者群を特定
- **TRITON-TIMI38**
 - Effient治療群は、Plavix群との比較においてPCI-ACS患者の「心血管死」「非致死性心臓発作」「非致死性脳卒中」の複合評価項目の相対リスクを統計学的有意性をもって19%減少
 - TRITON試験では、Effient治療群においてより重度出血例が有意に多いことを確認。
 - Effient治療群1,000名当たりの心臓発作例はPlavix群より23件少なくなる一方、重度出血例の発生は6件多い
- **米国ACS 約150万件/年**
- **8月上旬米国発売予定**

主要開発品目一覧表

	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	承認申請中
循環器	・DB-772d	・オルメテック/ 利尿剤合剤 (#)	・ <u>Edoxaban</u> ・ <u>フラスケレル (ACS-MM)</u> ・ <u>CS-8635</u>	・オルメテック/ カルブロック合剤 (#)
糖代謝	・CS-1036 (#)			
感染症			・レボフロキサシン注 (#) ・Laninamivir (CS-8958)	
がん	・U3-1287	・Tigatuzumab ・ニモツスマブ (#) ・ARQ 197 ・CS-7017		
免疫・アレルギー	・CS-0777	・SUN 13834		
骨・関節			・ <u>Denosumab (#)</u>	・ロキソニンゲル (#)
その他		・ソナゾイド [®] 効能追加 (#) ＜前立腺病変の造影/ 乳腺病変の造影＞	・ヒトクレリン ・メマンチン (#)	・フェロン/リハビリン 併用療法 (#) ・シロドシン
合計	4	7	8	4

- ・ グローバル(日本以外)で開発している課題に関しては、最も進んだステージのみ記載
- ・ アンダーライン(青字)は現在の優先プロジェクト
- ・ #: 日本でのみの開発

2009年度 第一三共主催 主要イベント予定

内容	日付
2009年度第1四半期決算	2009年7月31日開示、並びにカンファレンスコール
2009年度第2四半期決算	2009年10月30日(12:30)開示 並びにカンファレンスコール(18:00)
R&D説明会	2009年11月～12月
2009年度第3四半期決算	2010年1月29日開示、並びにカンファレンスコール
第2期(2010-2012) 中期経営計画説明会	2010年3月

MEMO



本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-6225-1126

FAX: 03-6225-1132

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

つくっているのは、希望です。



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社